

平成26年度千葉県公立高等学校入学者選抜方法等改善協議会（第1回）【概要】（案）

日時：平成26年7月31日（木）午前10時から正午まで

場所：千葉市ビジネス支援センター 会議室1（きぼーる13階）

1 出席委員（敬称略・名簿順）

大久保利宏，大森英一，小西則子，太田公昭，四ノ宮貫，吉田悦子，子安昌人，佐久間勝彦，
田中庸恵（委員長），町田義昭（副委員長），大田紀子，川崎宏薫，中村美彦

2 次第

（1）開会のことば

（2）県教育委員会あいさつ

（3）委員紹介

（4）委員長，副委員長選出

（5）報告

①県立高等学校入学者選抜方法の改善について

②平成26年度千葉県公立高等学校入学者選抜の結果について

③平成26年度千葉県公立高等学校入学者選抜における中学校及び高等学校からの意見について

④平成26年度千葉県公立高等学校入学者選抜における学習成績分布表等の公表について

⑤平成26年度千葉県公立高等学校入学者選抜における選抜・評価方法の公表について

⑥平成27年度千葉県公立高等学校第1学年入学者選抜要項について

⑦平成27年度千葉県公立高等学校「前期選抜」，「後期選抜」等の検査のないよう・出題方針について

（6）協議

①平成27年度以降の千葉県公立高等学校入学者選抜方法等の在り方について

②平成28年度千葉県公立高等学校入学者選抜日程（案）について

（7）閉会のことば

3 協議内容

次第（6）の①平成27年度以降の千葉県公立高等学校入学者選抜方法等の在り方について及び②平成28年度千葉県公立高等学校入学者選抜日程（案）について，協議を行った。

①について

・前回のアンケートは悉皆調査ではないので，保護者・生徒は本当に複数回を望んでいるのかが分からない。複数回にするのならそれがはっきりとわかるアンケートをやってほしい。

・現行制度によって安心をしながら受検している生徒もいる。

・複数回実施することにより救われる受検生が多少でもいるならば，複数回実施する意義がある。ただし，その根拠となるアンケートを実施して今後の入試制度の改善に備える必要がある。

・生徒や保護者から聞いている意見では，アンケート結果のように，体調の面などを考えると，複数回あったほうがよいということである。

・保護者の立場として，安心感という意見に対しては若干の違和感がある。近隣は1回で受検をしていて，複数回は負担が大きい。是非またアンケートを取ってほしい。

・複数回の現行制度の継続は，今後も規定されるものでないと把握しているが，昨年度の協議でも一本化にするなら，どんな一本化にしていくのかということを考えていくべきだという話もあった。

・一本化を考えていくのならば，現行制度のデメリットをどう補っていくか。

- ・今後も現行制度を継続させるのか、あるいは一本化するのかというある程度の見通しがあると、よいのではないかと。
- ・今後の入試制度のあり方については、中学校、高等学校側との連携を一層図りながら検討をお願いしたい。現入学者選抜制度の日程など改善が難しい現状から、入学者選抜の一本化を望む声も大きくなっている。
- ・現行制度をどうするかということについては、制度を大きく変えることになり、決定してから実施まで数年の時間はかかるので、調査関係を綿密に行い、整理分析してじっくりと次の策を練ってほしい。
- ・資料提示ができるものは、資料提示をしてはどうか。
- ・アンケート調査についての呈示または案など、実施するかしないは別として触れてはどうか。
- ・専門学科の100%は、大変よい改善点である。
- ・生徒や保護者は、どのような制度を望んでいるのかを調査した方がよい。100%は専門科に限らず、普通科でもいえることだ。
- ・専門学科が、50%以上100%以内という改善をしたことは、非常に大きな改善である。これについて、中学校の保護者及び生徒がどのように反応するか、という状況を見る必要がある。専門学科で、100%にする前と後での受検生の動向を見ながら、アンケート調査を実施して、普通科についてもどうすべきかという議論すべきである。
- ・2回目の協議を受けて3回目の協議会を持つのか持たないのかを決めてはどうか。

②について

- ・志願理由書の原則的な廃止や入学確約書の中学校長の公印を廃止することに関しては、非常にありがたい。また、平成28年度選抜から前期の合格発表から後期の出願までが、1日増えることも非常にありがたい。